

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
 大学院生研究
 2008年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学研究科	日本文学 専攻
指導教員	所属・職名	氏名	
	文学部・教授	小嶋 菜温子 印	
自然・人文の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題名	王朝物語と図像からみる日本社会と「家」の構造—『落窪物語』を主軸に—		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科・日本文学専攻 博士課程前期課程2年	酒井 朱夏 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2008 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は『源氏物語』以前の重要な王朝物語文学である『落窪物語』及び『住吉物語』の「継子虐め譚」を軸に、婚姻と成人における儀礼及び、土地所有の法的規制と実情をさぐるものである。「継子虐め譚」の物語類型に強く絡む「家」の構造という問題は、物語を詳細に読み解き、さまざまなメディアにおける解釈と享受の有り方を通してこそその本質に迫ることのできるものである。

「家」の構造理解のために、本研究は二つの研究を並行する。第一は個々の伝本の特徴を解析する書誌学的分野の研究であり、第二は時代や地域、用途などの、様々な背景が深く関わって生まれた伝本の図像学的研究の研究である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[文学] [図像] [享受]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

①本年度の研究活動の経過は以下の通りである。

A、奈良絵本「住吉物語」を中心とした調査活動

於：愛知県西尾市岩瀬文庫ほか

日時：2008年7月15・16・17日

B、「源氏物語屏風」を中心とした調査活動

於：宇治源氏物語ミュージアムほか

日時：2009年2月26・27日、2008年3月1日

C、シンポジウム「源氏物語と七弦琴」への参加

於：同志社大学今出川校舎

日時：2009年2月28日

②研究成果の概略

本年度中は第一に、指導教授である小嶋菜温子教授らが中心となり行った二つの研究プロジェクト(2005・2007年度立教大学学術推進特別重点資金SFR:自由プロジェクト研究「海を渡った日本の図像・文芸資料の調査と研究—スเปนサー・コレクション蔵資料の調査ならびに刊行」、2006～2008年度文部科学省科学研究費:基盤研究B「王朝文芸の中世・近世における図像的展開に関する総合比較研究」)の調査から得られた成果の一つであるニューヨークパブリックライブラリー、スเปนサー・コレクション蔵『住吉物語』について翻刻の完成・本文比較・解題を行った。掲載雑誌の都合により翻刻及び同系統代表本文との異同については掲載を2009年度発行の次号に遅らせたが、それに先んじて解題を発表するに至った(「スเปนサー・コレクション蔵『住吉物語』解題」)。『住吉物語』は改作を繰り返され、百種以上の異本をもつ複雑な本文系統を一つの特徴としているが、今年度の研究を通して、スเปนサー本『住吉物語』は桑原博史氏の分類する所の〔第一類〕、友久武文氏によれば〔甲類〕の、いずれも流布本系に属するものと判断した。これらの代表本文とされる天理図書館蔵藤井乙男旧蔵本との本文比較により得られたスเปนサー本本文の特徴は、中巻の長歌の句の順序に顕著に表れている。長歌の句数については異本の系統により増減があるが、その順序についてはほとんど異同がない。しかしスเปนサー本においては句の入れ替えに特徴があり、これは現地調査で確認した同系統の西尾市岩瀬文庫本における句の大胆な入れ替えと併せ、意図的組み換えと錯簡の両方の可能性を示唆した。また、スเปนサー本『住吉物語』の絵については、「覗く」行為の描かれ方に特徴を見出した。王朝文化で「覗く」行為は、とかく男君による「垣間見」に収束しがちだが、『落窪物語』において継母が主人公女君を覗き見の穴から監視するという行為など、「覗く」行為の多様性は現在、中古文学の領域で注目を集め始めている。『住吉物語』本文にも継母の謀略で主人公女君の偽の恋人を父中納言に覗かせたり、逆に正体を明かさぬまま父が行う裳着の儀を主人公女君が覗き見たりと、男君が恋人を見初める以外での「覗く」場面が描かれる。今回、スเปนサー本において絵画化されたこれらの「覗き」は、「覗く」主体を本文と異にしている。「覗く」・「覗かれる」のが誰であるか、その性や立場は物語享受の研究に密に関わる点であり、王朝物語の「家」構成員について物語本文と歴史的背景と併せ、立体的に把握する有力な手掛かりとなる。この点で今回の研究成果としては解題で触れた内容にとどまるが、「覗き」の視線という点に絞って、『住吉物語』を中心とした様々な図像資料を研究対象に広げることにより、スเปนサー本の挿図についても特徴や制作意図を見極めていく予定である。

なお、今年度『落窪物語』と家—奪取と報復—という題で修士論文を提出したが、この中では物語本文に基づき、『落窪物語』と『住吉物語』における継子虐めの本質の相違について論じた。継子に対する迫害が、継子を家に繋ぎ止めるか、追い出すかという目的の相違による点としたのは、SFR研究の書誌及び図像に関する「家」の構造についての研究を通して得た論である。例えば『住吉物語』の挿図で多く描かれる嵯峨野の遊びの場面は、男君が異母姉妹たちと見比べて主人公女君の美しさを痛感する場面であるが、今回の研究を通して、改めて絵画化される場面として女君の比較による優劣を明らかにするこの場面がほぼ必ず選ばれている点に注目した。継母が女君を貶めて世間の注目を滅却しようと企むのは、男君の視線を通して姉妹の格差が強化されるためであり、継子虐めという言葉だけでは見えてこない「家」の構造を示す材料である。また、本研究を通して「童」の存在が「家」の構造を為す非常に重要な存在であるという点も看取した。今年度中の成果とはならなかったが、2009年度の早い段階で「童」と「家」について論文を発表する予定である。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。